令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年3月31日

施設名	港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区赤坂6-6-14	指定管理者	社会福祉法人 東京聖労院

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
事業所では、毎年策定する事業計画の中に、重点目標や具体的な指標として各種目標数値を示している。計画目標の管理手法として、職員間で情報を共有し、効率的に確認したいとのニーズがあり、ICT化の促進を求める声が多かった。また、介護サービス全体の質の向上と法人独自の各種データ管理の効率化を図るために、クラウド版介護支援ソフトを導入しているが、これらのシステムを効果的に活用することで、ペーパーレス化・DX化を進展させ、管理業務・付随業務等の負荷軽減時間の多くを、本来の介護サービス業務へ振り替えていくことが望ましい。		令和5年11月から介護記録ソフトほのぼのNEXTを導入した。11月にセットアップ作業が開始され、12月は操作説明会がスタートしている。令和6年1月下旬からは在宅にてiPadを使用し、バイタル・体重・食事量の入力を開始し、3月中旬からは連絡ノート作成についてもiPadで作成を行うようにした。iPadを5台導入することにより各担当者（フロアリーダー・入浴担当・機能訓練・看護師等）が別々に入力を行うことができ、転記作業が削減された。令和5年8月からはインカムも導入したため、これまでメモで渡していた情報が瞬時に職員内で共有ができる環境を整えている。	令和6年4月からは、ケース記録（介護・機能・看護師・相談員）も完全移行し、業務日誌についても、5月からはほのぼのNEXTで作成を行い（自動取り込み）、電子印をシステム内で行うことで、プリントアウトせずに、処理できるようになる。また、事故報告書についても、ほのぼのNEXT内で作成できるので、基本的にプリントアウトはせずに作成していくことになる。事務連絡についても、基本機能として社内メールを作成できるため、周知事項や個別の職員に対するアプローチも、ほのぼのを活用していく。	新たなシステムを導入したことで、業務上の情報の管理や共有を、複数人で同時に、効率的に行うことができる体制を導入した点を評価する。現行の取り組みを維持すると共に、個人情報等の管理の面からも利用者が安心して利用できる体制を維持することと、ICT化により更なる業務負担の軽減を進めるよう、指導していく。
家族とのやり取りは、連絡帳、送迎時の報告、相談員の随時報告が主となっている。しかし、今回の利用者調査では、「家族への情報提供」をより求める声も寄せられていた。コロナ禍の影響により、家族会の集合開催ができなかったという影響があったと考えられるが、写真や動画を用いるなど、更なる手法を検討することも必要と思われる。現在、事業所が進めているICT化の進展に合わせて、職員の負担を増やさず、家族と様々な情報をやり取りしやすい環境を整え、家族に事業所の取り組みや、利用者の活動の様子をより知ってもらうことが望ましい。		令和5年度については、家族会はすべて書面開催とした。※感染症対策のため。第2回家族会資料では、年間の活動内容を写真で振り返る報告を行った。また、認知症対応型通所介護の活動についても紹介し、回想法や機能訓練についても写真を付けて紹介した。サン・サン赤坂では、X（旧ツイッター）でも、随時情報を発信させていただいております。連絡ノートをほのぼので作成するようになり、iPadで活動内容を写真で載せることも可能になったので、個人情報に配慮しながら行っていく。	令和6年度については、家族会の開催を予定しているので、実際の活動を見ていただくとともに、行事等の活動を写真で伝えることを考えている。Xについても、施設全体での情報を配信していく。希望の方については、ほのぼの「つながる家族」（※ID・PWを設定し、その方だけの情報やり取りが出来る仕組み）に登録をしていただき、請求書・領収書や施設からの連絡を、システムを介して行うよう、調整したいと考えている。	利用者やその家族の意向に寄り添った行事の開催を期待する。X等のSNSでの施設や行事に関する情報発信や、新たに導入したシステムにより、利用者の家族の利便性向上に繋がる情報提供体制に繋がるよう、指導していく。
事業所では、適正収益確保と安定的な事業継続のために年間稼働率の目標を掲げている。そのため、行事やイベントを企画、宣伝に力を注ぎ、臨時での利用も募っている。また、1日あたりの入浴利用定員も拡大させている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が収まる様子はなく稼働率上昇の気配がなかったが、コロナ禍対策として小グループ活動を導入して臨時利用が増加し、令和5年度下期は目標達成の見込みが出てきている。今後も稼働率向上への取り組みを継続し、より多くの利用者を受け入れていくことが望ましい。		令和5年度については、予算で設定していた稼働率をクリアすることができた。新型コロナウイルス感染症が5類へと移行となり、利用者やご家族の方でも利用に前向きになられる方が多くなったことも稼働率向上につながったと思われる。また、個別や小グループでの活動も、感染症対応に配慮しながら行うことができた。季節感を感じる行事の開催や、各月の映画上映や習字・おやつクラブを、ご利用者に喜んでいただくことができた。	令和5年度同様に、毎月の行事やその他の活動を継続的に提供するとともに、認知症のご利用者への個別プログラムをより具体的に検討・取組んでいきたい。一般通所介護を利用いただいている利用者の中で、認知症状が少しずつ出てこられている方に対してのアプローチ法や、ご家族・ケアマネジャーとの情報共有しながらチームアプローチに繋げていきたいと考えている。	個別の利用者に寄り添った支援や、更なる行事の拡充、利用者の方が快適に利用できるような施設の修繕等、予算の面から支援し、更なる稼働率の向上に繋げる支援をしていく。